

2 学期からの具体的改善プラン

平成 24 年度 白根百田小学校

1 学力向上にかかわって

児童アンケートの「授業でわからないことなどを進んで質問している」「自分で考えたことを進んで発表している」は毎年否定的回答が多い傾向にある。

教職員の自己評価でも、すべての教師が「基礎的・基本的内容を確実に定着させようと努力している」と回答している一方、「指導内容が多く、基礎学力定着のための時間があまりとれない」「個別に対応しなければならない児童が多く、支援に入ってもらっているが、それでも十分な対応ができない」といった悩みも聞かれる。

このことから、月並みであり、やや抽象的ではあるものの、

安心して自分の考えのべ話し合える授業づくりと学級づくり

を、教師サイドの目標として、まず掲げたい。

具体的には、

本校で長く続けている校内研究とも関連させ、意識的に「自分の意見を述べる」「友だちの意見を聞く」授業を行い、安心して話し合える雰囲気授業や学級を創る。

そのためにも、子どもと教師のよりよい人間関係を確立する。

そして、これらの大前提としての

あたりまえのことをきちんと……

を児童サイドの目標として掲げたい。

具体的には、わすれものをしない 宿題をきちんとやる 人の話をしっかりきくなどがあげられるがこれがなかなか難しい。まずは児童がきちんと取り組むことを望みたいが、教師が根気よく指導やアドバイスを続けると共に、各家庭にも意識的な協力をお願いしたい部分である。

2 学校生活にかかわって

児童アンケートでは、「友だちに、いやがることを言ったりしたりする」と回答している児童に比べ「友だちに、いやがることを言われたりされたりしている」と感じている児童の方が多い。これは、毎年同様の傾向がある。また教職員の自己評価でも「口のきき方が悪い子が多い」「人がいやがることをしないに関し、個への対応、その都度の対症療法に追われ、全体への予防教育がなかなかできずにいたが、今年度研修した『心理教育プログラム』を全校で生かしていきたい」といった意見がある。

このことから、

「人がいやがることをしない」・「自分を大切にし、同じように人をも大切にできる子」の育成を大きな目標として掲げ、従来にも増して、

「人がいやがること」の個々のケースについて、児童の心理を把握してのていねいな対応と指導

「人がいやがること」について、授業で取り上げる(道徳・学級活動を中心にあらゆる機会に)ことをより充実させると共に、

「心理教育プログラム」に基づいた指導を全学級で実施する

を、具体的改善プランとして掲げる。なお、この指導は特別な機会に単発で行うだけでなく、学校生活のあらゆる場面で振り返り、自分の気持ちをコントロールしながらよりよい方向を目指す子どもの育成を図っていきたいと考える。

3 保護者との連携にかかわって

保護者アンケートについては、「子どものしつけや基本的生活習慣に注意を払っている」「子どもの様子に変化があれば、すぐに先生に知らせ相談している」について否定的回答が比較的多いのが特徴である。

このことから、保護者との連携の中で目指していく目標として、まず

基本的生活習慣の徹底(学年PTAの具体的目標への取り組み)

を設定したい。具体的には、「4月の学年部会のおりに学年PTAで掲げた具体的な目標への取り組みを確実に行う」ということになり、保護者に意識的に取り組んでもらうと共に、学校からも積極的に働きかけを行っていく。(例えば、チェック表の作成とか、学年・学級だよりで取り組みを紹介するとか)

そして、当然の前提として、

「共にやっぺいこう」という「先生と保護者のつながり」を強くする。

を、確認の意味でも、あらためて設定したい。

本校では、保護者への情報発信を積極的に行っているが、学校側からすれば、まだまだ「先生の意図や工夫が保護者に伝わっていない」と感じるし、保護者からみれば、気軽に相談しにくいという状況もあるだろう。

おたより、連絡帳、ホームページ、学校連絡メールによる情報提供を根気よく続ける。

学級懇談や学年部会、授業参観などの機会が有効に生かせるよう工夫と充実を図る。(保護者サイドの工夫や意識変革にも期待したいところである。)

児童について気になることがあった場合、電話や連絡帳を通じまめに情報を共有していくと共に、大切な場面ではためらわず直接面会して、お互いに共感的に話をする。

などの具体的な方策により、この目標の実現に迫っていきたい。